

天花坂口坂

天花坂口坂は歴史街道萩往還のもっとも急な区間の始点です。天花坂口から六軒茶屋を経由して板堂峠までの散策路は、段々畑や森林に覆われた山々の美しい景色が楽しめる萩往還で最も人気のあるコースの 1 つです。このルートは、約 2.5 キロ続き、約 2 時間かかります。萩往還語り部の会を通じてガイドを手配することができます。

萩往還は 1604 年に萩城が築城された後、長州藩（現在の山口県）を統治していた毛利家により開発されました。萩往還は日本海と瀬戸内海沿岸の間の輸送や取引のために毛利家が統治する領土をつないだものです。

1635 年以降、長州藩主は、徳川幕府より課された参勤交代の一環として、隔年で萩と首都江戸（現在の東京）に滞在しました。藩主は家臣を伴い、大行列を成して萩の城（萩城）から現在の防府市にある港、三田尻まで萩往還を進み、三田尻で船に乗り、旅を続けました。そして、首都江戸で 1 年過ごした後、萩に戻ってきました。

この行列は、家臣、護衛、使用人など、約 1000 人から成っていました。歴史的文献によると、行列は最大で 1663 名でした。藩主は、4 人から 6 人の担ぎ手が担いだ籠に乗っていました。萩往還の道幅は通常 4 メートルありましたが、板堂峠などの山間部では幅が狭くなっていました。